

令和7年度 埼玉県教育委員会委嘱
埼玉県英語指導方法改善事業
研究成果報告（中間報告）

北本市立北本中学校

北本市立南小学校

研究主題

英語で自分の考えや気持ちを意欲的に表現できる児童生徒の育成
～音声から文字への指導を充実させて～

1 研究主題設定の理由

(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果から

令和6年度	令和7年度
<ul style="list-style-type: none">・正答率が県の平均を下回っている・学力の伸びた生徒の割合が県の平均を下回っている。・「基本的な語彙や文法・語法」、「正しく文を組み立てること」、「与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くこと」に課題が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・正答率が県平均とほぼ同じである。・学力の伸びた生徒の割合は県の平均を上回っている。・依然として「基本的な語彙や文法・語法」、「文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くこと」に課題が見られる。

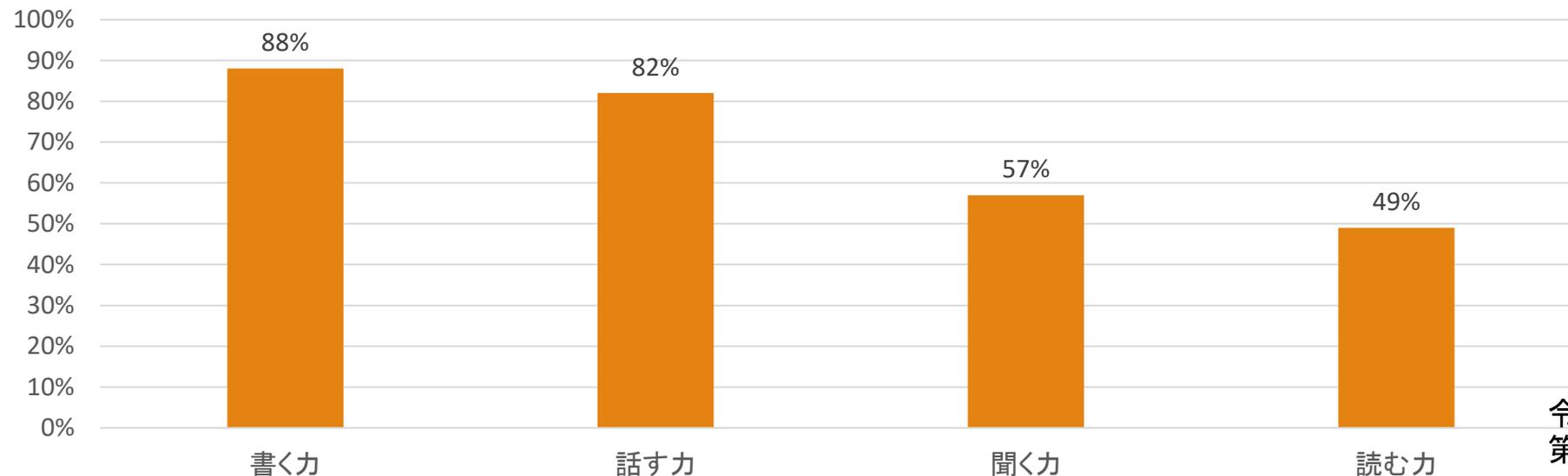
これらから、英語で書いて表現する力を育むことが課題となる。表現することが苦手である理由の一つに発達段階に応じた適切な指導が実現できていないことが推測される。

1 研究主題設定の理由

(2) 生徒の意識調査の結果から

1年生を対象に年度末に実施した意識調査によると、英語で書いて表現することに課題意識や関心を強く抱いていることが伺えた。生徒たちにとって英語を書くことができるようになることは、英語学習において、大きな自信となり、苦手意識を軽減させると考えた。

〈これからさらに向上させたい技能は何か？（複数回答可）〉



令和7年3月実施
第1学年163名

2 研究仮説

仮説1

英語学習において、音声から文字への指導を充実させれば、児童生徒が自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で書くことができ、英語を書くことへの苦手意識が軽減するだろう。

2 研究仮説

仮説2

小中連携を図り、小学校での指導内容を踏まえた共通の指導を行えば、生徒が安心して学ぶことができ、学習への意欲も高まるだろう。

2 研究仮説

仮説3

やり取りの時間を十分に確保して、中間指導を多く設けたり、やり取りを多くの児童生徒としたりするなど、やりとりの機会を充実させれば、児童生徒は英語でのコミュニケーションに必要感を持ち、自分の考えや気持ちを意欲的に表現できるだろう。

3 主題にせまる手立て

○相互授業参観を定期的に行い、校内英語科部会において、以下の指導等について共通理解を図る。

- ・語順が分かる掲示物の作成
- ・小学校での学習内容を踏まえた円滑な学習指導の実施
- ・3学年共通で取り組む「書く力を高めるための帯活動」の実施
- ・必要感があり、単元全体に関わるスモールトークの実施
- ・定期考査における具体的な出題内容の事前提示
- ・単元や学期ごとにおけるパフォーマンステストの実施

○南小学校において兼務教員が上述の内容を、小学校の外国語教育の目標に沿って実践する。

○兼務教員が、実践を南小学校英語専科教員と共有し、中学校での学習を見据えた系統的な指導の実施を目指す。

4 研究の実際

(1) 今年度の主な研究過程

時期	活動内容
4月	・英語指導方法改善委員会①(研究主題・研究組織、研究計画の検討) ・令和7年度埼玉県英語指導方法改善事業に係る県教育局による研究協力校への訪問①
5月	・英語指導方法改善委員会②(県教育局との打ち合わせ)
6月	・英語指導方法改善委員会③(研究内容の検討)
7月	・令和7年度埼玉県英語指導方法改善事業に係る県教育局による研究協力校への訪問② ・英語指導方法改善委員会④(研究構想の構築) ・拡大ALTミーティング
8月	・外国語・英語教育研修会 ・第1回外国語活動・外国語研究協議会
10月	・令和7年度埼玉県英語指導方法改善事業研修協力校における公開授業及び 研究協議会等研究成果発表(本発表)への参加 ・英語指導方法改善委員会⑤(実践報告、先行研究の成果の共有)
11月	・英語指導方法改善委員会⑥(学習指導案検討)
12月	・英語指導方法改善委員会⑦(県教育局との打ち合わせ) ・学習者用デジタル教科書活用に向けた授業研究会
1月	・英語指導方法改善委員会⑧(学習指導案検討) ・第2回外国語活動・外国語研究協議会
2月	・英語指導方法改善委員会⑨(研究の整理)
3月	・英語指導方法改善委員会⑩(中間発表(紙面発表)資料及び事業実施報告書の確認)

4 研究の実際

(2) 研究組織

① 英語指導方法改善委員会

- ・北本中学校・英語科教諭、南小学校・英語専科教員 計6名
- ・相互授業参観を定期的に行い、校区内英語科部会において、指導方法等について共通理解する。

② 外国語活動・外国語研究協議会

- ・北本市内小・中学校外国語主任及び英語専科教員
- ・北本中学校内での研究について、情報共有を行い、研究の進捗状況や方向性について共通理解する。

③ 実施事務局

- ・北本市立北本中学校英語科教員 計5名
- ・講師等との研究内容及び講義内容等の調整、渉外
- ・研修会等の庶務及び運営

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

① 音声を文字表記する帯活動の実施

Waku-Waku Writing Dictation

教師が既習事項の中から1～2文の英文を読み、生徒はそれを聞き取り、書く活動。帯活動でWarm-upの一貫として取り入れた。

〈生徒の感想(2年)〉

- ・英語を聞くだけでなく、頭の中で文字に置き換える力がついた。
- ・耳で聞いたことを書くことでスペルの確認になった。
- ・英文を聞いて書くことで、文法と単語を覚えることができた。
- ・見て書くのではなく、耳で聞いて書くことで、改めて、文法のスペルも確認できた。
- ・過去形や複数形などの細かい発音を聞き取る練習にもなり、単語のスペルが覚えられた。
- ・聞き取った英文を書くことで、英文の組み立てや文法に着目することができた。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

② 学習者用デジタル教科書や

ICTの効果的な活用

学習者用デジタル教科書を活用して個別の課題に応じた学習の実現を試みた。

〈見取った効果〉

- ・デジタル教科書の音声イヤホンで自己調整しながら音読練習をすることにより、書くための語彙の幅を増やすことができた。
- ・ポイントとなる表現などに、マーカーや付せん機能を使い、デジタル教科書上の学びを可視化していた。
- ・Googleドキュメントの音声入力機能で、自らの発音を確認することができた。繰り返し音声入力に挑戦する意欲的な姿が見られた。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

③ 小中共通の指導方法や

クラスルームイングリッシュの確立

- ・小中共通でWaku-Waku Writingに取り組んだ。

小学校⇒児童が慣れ親しんだ単語をALTが読み上げ、読まれたアルファベットを聞き取り書く活動。

中学校⇒教師が既習事項の中から1～2文の英文を読み、生徒はそれを聞き取り、書く活動。

- ・小中共通で会話活動での中間指導を必ず行った。児童生徒は既習表現を工夫して使えるようになったり、どうしたらより自然な会話になるのか考えたり、実践的な学びにつなげることができた。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

④ 小中連携による児童生徒交流

〈2月〉

同じ中学校に進学する西小学校の6年生とオンラインで授業をつなぎ、将来就きたい職業やその理由などについて発表し合う時間を設けた。これまで英語学習に苦手意識があった児童も、この取組を通して、意欲的に練習に参加し、4月に出会う仲間との交流を楽しんでいた。

〈3月〉

小学生の「中学校でしたいこと」のスピーチ動画を中学生に見せ、書いたコメントを小学生に渡す活動を計画した。小中連携を通して、英語を話す意欲がより一層高まることが期待できる。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑤ ALTの積極的な参画

- ア ALTと生徒間の個別での英文1行交換日記(2年)
週に1回程度、帯活動のひとつとして継続して実施した。
- 〈生徒の感想〉
- ・自分のことを書くだけでなく、ALTからの質問にも答えることによって、文章を読んで、書く力が高まった。
 - ・ALTとやり取りすることにより、ネイティブの表現に触れることができた。
 - ・当初は、インターネットで検索しないと英文が書けなかったが、徐々に自分の力だけで英文を書けるようになった。
- イ ALTと生徒による問答、やりとり(3年)
週に1回程度、帯活動のひとつとして継続して実施した。また、ゲームベース学習プラットフォーム「Kahoot」を使用して、やりとりの活性化につなげた。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑥ 段階を踏んだやり取りの設定と

中間指導の充実

- ・スピーキング指導において、繰り返し会話活動に取り組んだり、段階的にレベルを上げたりする等、スモールステップで取り組ませた。
- ・「チャレンジ⇒中間指導⇒再チャレンジ」を心がけ、生徒同士の教え合いや模範生徒の紹介など中間指導の充実に努めた。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑦ 表現方法等の具体例の提示

- ・パフォーマンステストなど発表活動において、良い発表の例と課題のある発表の例を考えさせた。また、模範生徒を紹介することを通して、目線、ジェスチャー、表情、質問など表現方法等の具体例を用いることで、より良い発表になることに気付かせた。

- ・英作文の活動において、最初に表現の例を提示し(教科書の中の表現や既習事項の表現など)、生徒の作文活動が円滑に進むよう指導した。

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑧ 研修会の実施

- ・ 拡大ALTミーティング
- ・ 外国語・英語教育研修会
- ・ 第1回外国語活動・外国語研究協議会
- ・ 学習者用デジタル教科書活用に向けた授業研究会
- ・ 第2回外国語活動・外国語研究協議会

4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑧ 研修会の実施

「外国語・英語教育研修会」

実施日：令和7年8月25日（月）

目的：研究主題に係る指導法を充実させるための指導の工夫を理論的に学ぶ

講義：音声から文字への指導（理論と実践）

講師：埼玉大学教育学部 言語文化講座英語分野
准教授 奥住 桂 様



4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑧ 研修会の実施

「第1回 外国語活動・外国語研究協議会」

実施日：令和7年8月28日（木）

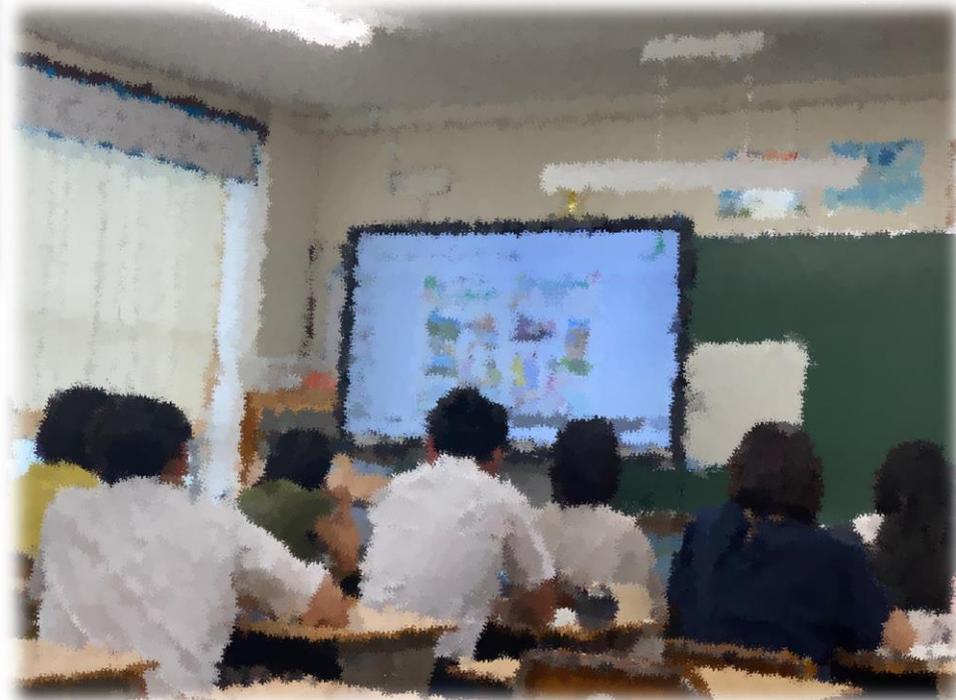
目的：学習者用デジタル教科書の効果的な活用について
実践的に学ぶ

内容：学習者用デジタル教科書の効果的な活用について

講師：東京学芸大学 教授 齋藤 嘉則 様

県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事

秋元 政康 様



4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑧ 研修会の実施

「学習者用デジタル教科書活用に向けた授業研究会」

実施日：令和7年12月8日（月）

目的：学習者用デジタル教科書を活用した授業実践を公開することで、指導方法の工夫改善を図る

授業者：長澤 亮 教諭

指導者：放送大学 准教授 小林 祐紀 様



4 研究の実際

(3) 仮説検証に向けての取組

⑧ 研修会の実施

「第2回 外国語活動・外国語研究協議会」

実施日：令和8年1月19日（月）

目的：授業を公開することで、研究の成果を市内に広めるとともに、今年度の研究のまとめとする

授業者：吉野 かおり 教諭

指導者：埼玉大学教育学部 言語文化講座英語分野

准教授 奥住 桂 様

南部教育事務所 学力向上推進担当

指導主事 大平 篤 様



5 成果と課題

(1) 成果

〈意識調査から〉

1年生を対象に2学期末に実施した意識調査によると、英語を書く活動に対して、肯定的に捉えている生徒が多い。生徒が書くことに対する抵抗感を軽減できている可能性がある。

質問: 英語の授業で好きなことを1つ教えてください。

回答: 「書くこと」 36% 「話すこと」 27% 「聞くこと」 22% 「読むこと」 14%

(令和7年12月実施 第1学年 181名)

〈指導状況から〉

- ・書くことに対しての苦手意識が軽減した。
- ・「話す⇒書く」という流れが定着しており、メリハリのある授業になった。書く力も着実についている。
- ・様々な書く活動を通して、生徒自身が「書く力が向上した」と効果を実感している。
- ・英語科教員の新たなチャレンジの機会の確保になった。

5 成果と課題

(2) 課題

〈指導状況から〉

- ・1授業の中で書く時間を十分に確保することが難しい。
- ・文構造は少しずつ理解できているが、表現するための語彙数が不足している。
- ・英語が苦手な生徒も定型文の表現を用いて書くことはできてきたので、生徒が意欲的に表現したいと思うような活動やねらいの精査が必要。
- ・学習者用デジタル教科書の使用頻度が低く、AI等を含むICTツールの効果的な活用に結び付いていない。

(どのように活用すれば、どのような学びにつながるのかについて深めていく。)

- ・英語科教員で十分に話し合う時間の確保が難しい。

(年間計画に英語指導方法改善委員会を位置づけ、見通しをもって研究に取り組んでいく。)

6 今後に向けて

□ 外国語教育7年間の系統性を意識した指導の充実

(1) 段階的な指導方法の検討

- ・楽しみながらも、書く力が身につく活動を考えていきたい。
- ・書く力を伸ばしていく必要がある。
 - ⇒中2, 3年で日記などの活動を取り入れたい。



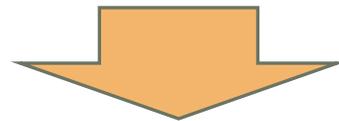
- 系統性を踏まえた小・中学校ごとの年間指導計画の見直し
- 小学校での学習内容を踏まえた円滑な学習指導の実施
- 書く力を高める帯活動の実施

6 今後に向けて

□ 外国語教育7年間の系統性を意識した指導の充実

(2) 必要感のある学習活動、主体的に取り組める学習活動の工夫

- ・「楽しい」けれど「苦手」という気持ちに寄り添って活動を考えていきたい。
- ・子どもたちが自主的に取り組める家庭学習を考えていきたい。
- ・さらにタブレットを活用したい。



○見方・考え方を働かせる深い学びの場の設定

○個別最適な学びの手立ての工夫

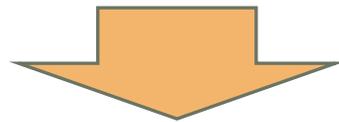
○デジタル教科書の活用

6 今後に向けて

□ 外国語教育7年間の系統性を意識した指導の充実

(3) 段階を踏んだ指導と中間評価の工夫

- ・タブレットを活用したい。
- ・AIを用いた英会話に取り組みたい。
- ・個に応じた指導をしたい。



○助言や相互評価を効果的に実施する工夫

○コミュニケーションの補助としてのデジタルコンテンツの活用

6 今後に向けて

□ 市内小中学校外国語教育担当者への成果の普及

- (1) 研究成果発表の場での協議
- (2) 担当者による研修、情報交換の場の設定